

第4回南知多町総合計画臨時審議会 議事概要

日時 令和2年11月16日(月)

10:00~12:00

場所 南知多町役場大会議室

出席委員

会長	千頭 聡	日本福祉大学 国際福祉開発学部教授
副会長	平山 康雄	区長連合会代表
	鈴木 甚八	南知多町観光協会代表
	澤田 晟	自主防災代表
	池戸 義久	教育委員代表
	伊藤 恵子	男女共同参画人材育成セミナー修了者
	中村 修見	民生委員・児童委員代表
	齋藤 慎也	ウミひとココロ代表
	岡田 濃	愛知県市町村課
	秦 由岐穂	一般公募
	栗本 秀樹	金融機関代表
	山本 奈緒	一般公募

欠席委員

桂木 繁功	南知多水産振興会代表
酒井 友之	商工会代表
山本 比呂志	あいち知多農業協同組合
宮本 邦彦	南知多プラスチック工業団地協同組合代表
辻 真理子	南知多町まちづくり協議会代表
山下 かず代	社会福祉協議会代表
辻 和幸	知多半島ケーブルネットワーク代表
山本 多恵	一般公募

傍聴席

0人

議事次第

あいさつ

- ・ 総合計画の素案について最終確認
- ・ 答申案の議論
- ・ アクションプラン・概要版の説明

議題概要

議題3 総合計画（素案）の修正について

【事務局の主な説明】

- ・ 第4回の審議会で議論された総合計画素案の修正について説明。

※以下のページ数は当日資料：総合計画素案の該当ページ

- ① P4 計画（2）6の図にマニフェストを追加したものに差替えている
- ② P11 第三章 タイトルを「基本構想」から「基本構想について」に変更した。
- ③ P22 「児童・生徒〜〜」という表現を「児童生徒」へ統一した。
- ④ P23 「ギガスクール構想」という言葉に注釈をつけた。
- ⑤ P46 「外国人」という表現から「外国籍町民」へ修正した。
将来図の朱書きの部分を追加
- ⑥ P47 文言を追加
- ⑦ P63 文言を追加
- ⑧ P71 文言を修正
- ⑨ P73 一時保育の申込に対する利用率等 KPI 目標値の追加

・ 管理職への女性登用率は重点政策 KPI として取り上げることが難しいが、基本施策 2-7（働く環境づくり）及び行財政マネジメント 4-1（職員の成長とやりがい）と、とるべき戦略（6）（…「一歩進んだ」まちづくり）にて女性の登用についての記載をすることでパブコメに対応した。

・ KPI の呼び方について、「管理指標」に代わる、他のわかりやすい表現についても議論いただきたい。

（会長 千頭 聡）

・ 前回審議会でご指摘頂いた管理職に占める女性の割合については、事務局説明のとおり。その他事項含め、意見はあるか。

(審議委員 秦 由岐穂)

・総合計画の KGI は令和 14 年度で出生数 75 人だが、南知多の出生数は平成 30 年で 62 人、令和元年で 67 人とすでに目標を大きく割り込んでおり、今年は母子手帳の取得数などから 40 人ほどになるという厳しい予測を耳にしている。コロナによる全国的な出生数の減少傾向はあるが、早急に起死回生の策が求められている。

・今回パブリックコメントでも 63 件のコメントのうち 12 件が出生数の達成は難しいという意見であった。意見の内容を 4 つにまとめると、1 つは「希望した保育園に入所している乳・幼児の割合 100%」という指標について、そもそも乳幼児は入所条件が厳しく、正社員であることや 120 時間以上勤務などの条件を自営業者は満たさず、入所希望を出せない。これら入所希望を出すことができない世帯は待機児童としてカウントされないため、役場が把握できていない潜在的な待機児童が存在しているという問題がある。農家だから、自営業者だからということで入所できず 2 人目の子どもをあきらめたという声をいくつも聞いている。

・2 つ目は「放課後児童クラブの申込みに対する充足率 100%」という指標について、現状の学童のあずかり時間では親の勤務時間を縮小せざるを得ないため、充足率という指標だと、働き方のニーズに沿ったサービスの向上にはつながらない。

・3 つ目は、子育て世代が柔軟で広く利用できる預かり保育や一時保育を求めているが、現状では利用しにくく緊急時のニーズに合っていない。

・4 つ目は女性の働き方についての社会認知が遅れているため、役場が率先して女性の活躍につながる指標を示してほしいというもの。

・1 つ目と 2 つ目の、保育所の入所希望と学童の充足については、総合計画素案の P73 で「指標は町民の実感と乖離することがないように運用も改善していく」と、意義ある修正がされた。3 つ目の一時保育の利用しにくさについては、指標に「一時保育の申込みに対する利用率」が追加され、パブリックコメントが反映されたと感じている。4 つ目についても、総合計画素案の 63 ページに記載され、今後取り組んでいくことは評価できる。

・ただし、「希望した保育園に入所している乳・幼児の割合 100%」という指標は保育園の定員を拡大するのではなく、厳しい入所条件によって達成されている側面もあり、達成を目指すことで逆にサービスの範囲が狭められてしまっただけでは意味がない。数値以上に重要なのはニーズに合わせてすぐに対応していく仕組みづくりであり、時世に応じた柔軟な対応を願いたい。

(会長 千頭 聡)

・前回審議会で議論できなかった総合計画素案第 4 章の計画の実行・推進についてはいかがか。基本構想では盛り込めないものをアクションプランに記載し進行管理するというもの。

・審議会で修正した部分は、議会でも別途議論・議決されているため、一言一句がこのまま印刷されるとは限らない点は、ご理解いただきたい。

(審議委員 澤田 晟)

・指標について、数値と自分たちが感じる感覚とが結びつかない。重点政策の指標がどこにつながっているかは、この審議会でも共有すべき。我々が共有できていないのに住民に共有してもらうのは難しい。また、適切な指標は他にもたくさんあるので、集計のためのコストや労力も考慮する必要はあるが、定期的な見直しが必要と思う。

・重点政策「定住支援」の表現について、「定住」とは何か。人は移動するし、町から出ていく人、入ってくる人の流れの中で、定住とは何をすることか、しっかり構想を練って打ち出してほしいと思う。

・空き家バンクの指標について、今人口減は急加速し空き家が増えている。人口が減ればその分空き家が増え、指標の数値が増加しやすいということでもあるため、別の相応しい指標があると思う。

・コミュニティバスも、利用者の増加を目指すよりも利便性をもっと上げるべき。私は車で出かけることが多いが、移動という大きな観点から、コミュニティバスが移動手段としてどうすればもっと使ってもらえるかを考えていくべき。定住のための利便性を高める手段を広げれば、定住も増えると思う。

(会長 千頭 聡)

・その他はいかがか。

(審議委員 秦 由岐穂)

・総合計画素案第4章 P77 の推進体制に関連して、日本公共利益研究所の西村さんからアドバイス頂いた話の中で、住民へのアンケート調査は、無作為抽出した対象者から回収率80%以上で回収できれば公共性が実感できるが、各種団体から働きかけられたモニター100人のアンケートでは、公共性の部分が少し弱いのではないかと指摘があった。

・現行のモニターアンケートでは、既存の団体に所属している人の意見が反映されやすくなるため、ソーシャルビジネスに従事している方や移住者・定住者など、団体に属していない人の意見は反映されにくい。私も農協に属していない有機農家だが、新しい分野で活躍している人たちの声が反映されにくいという懸念がある。

・各分野の計画の指標についても澤田委員がおっしゃったとおり毎年見直す必要があると思うが、LINEなど新しい技術を利用したアンケートであれば、住民意識調査を補い、ニーズの変化に対応していくことができる。今後、各施策を評価する評価委員において、オンラインアンケートの結果も踏まえた評価ができるようお願いしたい。

・私自身、総合計画の審議に参加し、南知多町の人口ビジョンや子育て支援事業、男女共同参画など様々な資料に深く目を通して、各事業でアンケートを実施しているということを知り、また役場も各部署が住民の声を丁寧に拾っていると感じた。こうした各部署の取り組みは素晴らしいと思うし、各事業のアンケートは回答者の当事者意識が高い。このよう

に各事業で行われているアンケートが、アクションプランや事業に反映されるための、仕組み作りや職員からの意見徴収も必要である。資料5で斎藤委員から提案もあったが、町職員がどうしたら南知多に住みたいと思えるか、職員へのアンケートも同時に実施してもらいたい。

(会長 千頭 聡)

・指標は課題があるので、基本構想を今後推進していく中で、今のご指摘を受け止めることが必要かと思う。

(審議委員 中村 修見)

・アンケート調査に関連して、学校規模の適正化に関する地域説明会で、保護者世代の参加が少なくがっかりした。参加者はシニア層が多く、若い人がこれからも住んでいくための意見を聞きたかった。住民の声を行政がどのように受け止めるか、アクションプランは住民の声に対応する行動計画になっているかが、これから問われてくると思う。

(会長 千頭 聡)

・皆様は様々な方法で行政運営に町民として意見を言える立場。数年に一回の総合計画策定の場だけでなく、日常的に個々の分野で積極的に町政運営に参画いただきたい。また、日常的に町政に対して意見を言う機会の少なさが、審議会で意見が多数出ることの裏返しだと思うので、これからの町政運営で検討していただきたい。

(審議委員 澤田 晟)

・今回の計画の中で「協働」という言葉が何度も打ち出されている。「協働」という観点から、モニターや役員以外のパブリックコメントなどで、人々がどう関わり変化が起きているのか、住民参加数の増減など、住民との関わりを示す数値を注意して見てほしい。

(会長 千頭 聡)

・総合計画の審議としては以上とさせていただきます。

議題4 第7次南知多町総合計画の策定答申案について

【事務局の主な説明】

・資料6について、これまでの審議会の意見を踏まえた事務局案として提示しています。9番については事前にお配りした資料から外国人や障がい者の表現を一部修正しています。
・前回審議会でお配りした資料4のこれまでの審議事項と答申の特記事項を紐づけし、前

回審議会でお配りした補足資料3の一覧表となっています。

(会長 千頭 聡)

・答申案については、特に13個の特記事項について、これまでの意見を受け止めることができているかという観点でご意見をいただきたい。

(審議委員 澤田 晟)

・12番については、役場が率先してやるのは当然だが、役場が率先といっても行政は法律等の規則があるため自由度は狭いし、わざわざここで記載するのは違和感がある。

(会長 千頭 聡)

・前回審議会でも女性の登用についてのご意見があったので、それを踏まえた記載だと推測する。当然なので記載しないという考えもあるし、大切なので書いておくという考えもある。他のご意見はいかがか。

(審議委員 秦 由岐穂)

・さきほど中村委員からあった、アクションプランにどのようにつなげていくかという点の記載はここにはないのか。

(会長 千頭 聡)

・具体的な文言としてご提案あればいただきたい。

(副会長 平山 康雄)

・皆さんのご意見のように、アクションプランや事業の実施がないと総合計画は達成されないので、「アクションプランの実現」という表現で記載してはどうか。

(会長 千頭 聡)

・3番の「事業や日々の業務に取り組まれない」の「事業や」の前に「アクションプランの効果的な推進のために」などを挿入、あるいは「KGI 達成の意識をしてアクションプランに取り組まれない」というのはいかがか。

(審議委員 池戸 義久)

・「アクションプランの実現に…」としてはどうか。「事業や日々の業務」は削られるが。

(会長 千頭 聡)

・整理すると、「基本構想にかかげた将来イメージ、基本目標、KGI、取るべき戦略、重点施策の達成を意識して、アクションプランの実現に取り組みたい」となるが、いかがか。

(審議委員 中村 修見)

・3番には協働・共創の考え方も入れた方がいい。また、「達成を意識して」ではなく「達成を意識したアクションプラン」のほうがいいのではないかと思う。

(会長 千頭 聡)

・今のご意見の2点目について、「基本構想にかかげた将来イメージ、基本目標、KGI、取るべき戦略、重点政策の達成を意識したアクションプランの実現に取り組みたい」としてよろしいか。

・1点目「協働・共創」は3番に記載してよろしいか。その場合、冒頭か最後か、どちらに挿入するのがよいか。

(審議委員 栗本 秀樹)

・1番に記載し、「住民等が協働・共創の町づくりに積極的に参加できる…」としてはどうか。

(会長 千頭 聡)

・私もよいと思ったが、住民等だけでなく行政もその考え方に基づくことも必要。1番と3番、どちらがよろしいか。

(審議委員 中村 修見)

・1番だと「積極的に参加」や「情報発信」に限られているため、「こういう方向で計画を推進していく」という力強い言葉になるといい。

(会長 千頭 聡)

・中村委員の意見を踏まえると、アクションプランの推進について記載した3番に挿入するのが適切と思う。

(審議委員 栗本 秀樹)

・3番に挿入し、「協働・共創を意識した」という表現にすればよいと思う。

(会長 千頭 聡)

・それでは「基本構想にかかげた将来イメージ、基本目標、KGI、取るべき戦略、重点政策

の達成及び協働・共創を意識したアクションプランの実現に取り組みたい」でいかがか。
異論なしとする。

・4番「KPIは目標の追及に拘泥することなく…」について、KPIは目標を追求しなくてもよいとも読めてしまうので、KPIは目標値の追及に「のみ」拘泥することなく…というように「のみ」を加えてはどうか。また、「拘泥」という言葉を一般的な「こだわる」に置き換えた方がよいと考えるが、いかがか。(異論なし)では、「KPIは目標値の追及にのみこだわることなく…」と修正する。

・これまでたくさんの議論をしてきたので、全て反映されたか疑問があるかもしれない。しかし審議会は議事録も公開されるので、ぜひ行政内部で審議会の議論・議事録をきちんと読み、それをどう生かすのか検討していただきたい。その前提でこの答申の修正案でご了承頂きたい。

(事務局)

・1点追加の修正事項として、「住民」という言葉は総合計画素案で「町民」に修正したため、答申でも「町民」に統一します。

～休憩、答申案修正～

(会長 千頭 聡)

・答申案の特記事項3番について、総合計画の記載順と合わせ、「基本構想にかかげたKGI、将来イメージ、基本目標、取るべき戦略、重点施策の達成、及び協働・共創を意識したアクションプランの実現に取り組みたい」と修正。また4番は「KPIは目標値の追及にのみこだわることなく…」と修正した。それでは町長への答申とする。

(答申書 読み上げ)

(町長 石黒 和彦)

・千頭様より答申をいただき、委員の皆様にも半年間にわたり非常に熱心に審議をしていただき、深くお礼申し上げます。

・第1回審議会の冒頭で「まずわかりやすく」そして「使える」計画にしたいと申した真意は、時代と共に息をして生活をして進化していく計画でありたいという願いがあったため。今後も都度ブラッシュアップして成長し続ける計画としたい。

・時代は急速に変化しており、どこに住んでいても世界中で活躍できる時代がきている。これは住みやすい町とするためのチャンスだと捉えている。審議会の中でも様々な意見を頂いたが、審議委員の思いが凝縮した答申として非常に重く受け止めている。

・この思いをしっかりと町民の皆さんと共有しながら、南知多町の目指す将来イメージ「絆、

選ばれる理由があるまち」を目指して、住みやすく暮らし続けることができる町とするため、新しい第7次総合計画のあゆみを町民の皆様と力強くスタートさせていきたい。役場では現在、総合計画を推進するためにも、行政機構の改革に着手をしている。

- ・ 次回の審議会では、第0次のアクションプランや、住民意識調査、評価委員会など来年度以降につながる非常に重要な議論をしていただく。引続き皆様のご協力をお願いしたい。
- ・ キャッチフレーズ「ずっと南知多、もっと南知多、だから南知多」のように、町民一人一人が心豊かに住み続け、多くの人を訪れる、すべてに理由があるまちを目指して、一緒になっていいまちを作って行きたい。

(事務局)

- ・ ここで千頭会長はお時間の関係で大学に戻られます。進行ありがとうございました。
- ・ ここからは副会長の平山委員に議事のとりまとめをお願いします。

議題5 その他 審議項目について

(副会長 平山 康雄)

- ・ それでは前回第4回審議会資料3(5)その他(アクションプラン案、総合計画概要版、住民意識調査の結果)について事務局から説明いただきたい。

【事務局の主な説明】

- ・ 議題の説明に入る前に、答申書に修正漏れ箇所があったため、再度修正して差替えます。

※以下に出てくるページ数は第4回審議会資料の右下通しページを参照

(第0期アクションプランについて説明(資料7))

- ・ 資料7通し129ページのアクションプランは令和3年度9月に作成公表するものです。現在は第6次総合計画から第7次への移行期のため、住民意識調査と評価委員会について、令和3年3月に第0期アクションプランとして公表します。通し130ページの目次に沿って説明を進めます。

第1章：総合計画との対応関係、プランの全体構成などについて説明

第2章：重点政策に基づく主要事業について説明

第3章：予算科目に基づく事業評価について説明

第4章：21の基本施策の評価について説明

第5章：住民意識調査結果について説明

第6章：KPIの目標数値を掲載、目標値の設定などについて説明

・通し135ページ、アクションプランのPDCAの図について、サイクルになっていないというご意見いただきましたが、ローリングの図が合わず、直線の図を使用し上に向かっていく事を示していました。

・その他の図はサンプルを掲載しており、3月までにはすべて整った形で準備し、第5回審議委員会で議論のうえ評価していただく想定です。

(概要版 スタートブックについて説明(資料8 通し163ページ))

・名称をスタートブックに変更した理由としては、町民が総合計画やアクションプランを知り、手に取ってもらい、行政と一緒にまちづくりをするための「スタートブック」として活用してもらいたいためです。

・内容については、住民意見交換会を踏まえて漫画を入れ、大幅に修正しました。これから校正作業を進め、3月には印刷してお配りします。

(住民意識調査結果について説明(資料9))

・通し183ページ 第3回の審議会の資料からの変更点について説明します。

○KPIの指標の目標値の集計誤りを修正。

○目標値について、原則は95ポイントへの上昇を目指す但、達成のために年間5%以上の上昇が必要なものについては、4年間で20%の上昇を上限とした。

○回答者の属性について、男女比、年齢構成を修正。また、住民意識調査結果も併せて修正。

○モニターの構成がわかる記載を追加。

○自由意見について基本目標ごとに整理し、テキスト分析ツールを使用した分析結果を追加。

○円グラフを棒グラフへ変更。

○相関分析を追加。

(副会長 平山 康雄)

・まず第0次アクションプラン案について、ご意見はいかがか。

(審議委員 秦 由岐穂)

・アクションプラン通し139ページに重点事業一覧の予定額について、歳入に対するバランスの記載もあると財政に対して健全な規模か分かりやすく、評価委員会も評価しやすい。また財源が国や県の補助なのか自主財源かも記載があると、町の独自の取組みや力の入れ方が分かりやすい。阿久比町のアクションプランでは、事業予定額の中に一般会計か、補助か単独か記載されていて一目で分かりやすい。

(事務局)

- ・アクションプランを9月に公表するスケジュールの都合上、公表時点では国の補助金を見込んではあるが金額が定まっておらず、10～12月に予算要求をしてある程度詳細な金額が決定します。そのためアクションプランの中に歳入バランスを記載すると当てにならない数値となり、逆に混乱をきたすことを危惧しています。
- ・アクションプランには記載されていませんが、事業評価書には事業費を前年度の決算額の実績値で記載し、一般財源等の内訳も表示しています。
- ・アクションプランの策定にあたって、より正確な数値が記載できるのであれば、運用を改善していきます。

(審議委員 秦 由岐穂)

- ・通し148～149ページ施策評価書の、「3. 将来像を実現するために町が実施している主な取り組み」について、例えば施策1-1（地域で大切にしている子育て環境）は総合計画の中では「ファミリーサポートセンター等の新しい事業についてはニーズを考慮し実施を検討」と記載してあるが、評価書では実践できたものだけが掲載されているので、総合計画に対し何が実践できて何ができていないのかが分からない。そこを比較できる形にするとよいと思う。
- ・通り149ページの「住民意識調査によるニーズ」では、役場が実施することが可能、困難、といった回答を記載するとよい。行政からの回答があつて初めて評価者が評価できる。
- ・各事業に関するアンケートの内容をこの評価書の中に反映し、各事業のアンケートの結果も含めて評価委員会で評価することが大事だと思う。

(副会長 平山 康雄)

- ・ありがとうございます。ご意見に対し事務局からお願いします。

(事務局)

- ・施策及び事業評価は前年度実施した事業に対する役場の自己評価を公表しており、この中で重点政策として取り組む50程度の事業を施策評価書の3番に記載することを考えています。
- ・それに対して住民の意見が4番であり、住民意見を踏まえて翌年度以降の重点事業等を定めた3か年計画がアクションプランとなります。次年度以降の3か年計画すべてを記載するため、ご意見のあったところは網羅できる組み立てになっていると考えています。

(副会長 平山 康雄)

- ・まだこれは完成形ではないが、完成形では網羅できるということか。

(事務局)

・そのように考えていますが、ただし0期アクションプランについては6次総合計画から7次総合計画の骨組みに修正が必要なため、もうしばらくお時間を頂きたいと考えます。

(審議委員 秦 由岐穂)

・総合計画の中に記載されている取り組みについて把握するための情報は、どこに記載されることになるか。

(事務局)

・次回審議会で行っていただく第0期アクションプランの模擬評価では、9月に策定した6次総合計画の第10期実施計画書から50ほどの事業を抜粋し、各事業をどのように進めたか、及び内部評価が記載されます。
・それ以降は、重点事業として取り上げた事業に対する評価を来年6月から内部評価し、次の令和4・5・6年度で取り組む事業を記載し、評価いただく形になると思います。

(審議委員 秦 由岐穂)

・総合計画で記載された内容や、その都度見直す部分などは、アクションプランのどこかに加わっているということでしょうか。

(事務局)

・見直すものについては、前年度に作成した3か年計画を、評価委員会での評価に基づき改訂し、次年度からの新しい3か年計画として定めることとなります。
・今提示している案ではうまく説明できないので、0期アクションプランの完成形を示したうえで、再度皆様からご意見を頂くため、作成を早急に進めていきたいと思えます。

(副会長 平山 康雄)

・完成形ができるとわかるという事で、皆様よろしいか。

(審議委員 中村 修見)

・先ほど答申した協働・共創を意識したアクションプランという考え方に基づくならば、協働・共創がどう実現されているか、施策評価書の中でわかるとよい。

(審議委員 秦 由岐穂)

・今の意見に関連して、地域との協働が実際にどのように行われたのか、取り組みについての評価も施策評価書に加わるとよい。

(副会長 平山 康雄)

- ・アクションプランの完成版に、委員の意見を反映するというので、事務局いかがか。

(事務局)

- ・地域との協働を評価できるような仕組みを0期アクションプランの中に入れ込みたいと思います。

(副会長 平山 康雄)

- ・それではアクションプランについてはよろしいか。
- ・その他資料8、9住民識調査結果についてご意見はいかがか。

(審議委員 秦 由岐穂)

- ・先ほども提案した、モニター以外へのアンケートや職員へのアンケートをぜひ検討いただきたい。

(事務局)

- ・モニター以外へのアンケート調査、職員への意識調査については、実は今年度も実施しており、継続していきます。インターネット等でのアンケートについては、過去の審議会でも説明はしたように9名しか回答を頂けていないため、回答者を増やしていくことも非常に大事だと思っています。

(副会長 平山 康雄)

- ・それでは今回の審議会の審議を終了します。ご協力ありがとうございました。

(事務局から、次回審議会についての案内)

以上